

平成30年度神奈川県患者のための薬局ビジョン推進事業 事業成果

在宅医療・介護における薬剤師業務実感事業

1. 薬剤師等に対する地域ニーズの把握

内容

多職種に対し、薬剤師に求める具体的な役割等についてのアンケート調査を行い、明らかとなった薬剤師に求められるニーズを地域の薬剤師が認識し、そのニーズに応えることができる具体的な薬局や薬剤師の機能等を地域の在宅医療・介護にフィードバックする。

実績

回答件数 535件

- ・99%が、「薬剤師は在宅医療・介護において必要」と回答
- ・実際の薬剤師の関与の程度は50%以下が大半を占めた
- ・「薬剤師に期待する役割や要望」には、薬剤師にさらに積極的に在宅医療・介護に関与し、医師との橋渡しや研修の講師をしてほしい等の回答が多くあった

2. 薬剤師等と地域の多職種との連携推進

内容

多職種からの紹介を受けた患者等に対し、お試しとして、無料で薬局の薬剤師が居宅を訪問して服薬管理指導を行い、薬剤師が在宅医療・介護に関わることの有用性を患者や多職種等に実感してもらい、連携体制を構築する。

実績

実施件数 55件

- ・多職種からの評価では、薬剤の管理状況、服薬状況及び残薬状況について、延べ31名の患者が「きわめて不良であったが」事業実施後は「きわめて不良」の患者は0名となり、「やや不良」であった患者数も、事業実施後は大幅に減少し、「ほぼ良好」及び「良好」の合計が9割を占める結果となった。
- ・患者の85%が有用と評価

事業成果及び今後の課題

事業成果

- 薬剤師が参入し、専門性を発揮することで、多くの患者の服薬状況等の問題を解決することができた。
- 更に、薬の専門家である薬剤師が薬の管理等に携わることにより、多職種や患者、家族は安心感を得ることができ、精神的な負担の軽減につながるとともに、多職種が在宅医療・介護における薬剤師の有用性を理解することにつながった。
- ➡ ○薬剤師の職能を在宅医療・介護の場に活かすことの必要性は今後更に高まると予想される

今後の課題

- ニーズ調査ではほぼ全ての多職種が在宅医療・介護への薬剤師の関与は必要と感じていたにもかかわらず、実際のお試し訪問の要望は想定より少なかった。
- 在宅における薬剤師の役割について、本事業で多職種及び患者へ一定の周知を行うことはできたものの、その認識の度合いは未だ十分ではない
- ➡ ○薬剤師が在宅医療・介護へ参入するためには、薬剤師の積極的な働きかけ等を継続して行う
- 多職種の薬剤師の職能に対する理解度を上げるため、積極的な会議等への出席を通して多職種とコミュニケーションを深める

子育て世代を対象とした健康相談事業

出張お薬相談〔子育て世代対象〕

内容

薬局の薬剤師が子育て支援センター等を訪問し、子供を持つ保護者を対象に子供への薬の飲みせ方や誤飲しやすい物など薬に関する説明や健康相談に対し助言を行う。

実績

相談件数 196件

- ・事業前から「薬局に相談していた」のは、相談者の8%
- ・事業前から、相談をしようという気持ちを持っていても実際の相談には至っていないのは、相談者の47%
- ・事業前に「相談できることを知らなかった」のは相談者の19%
- ・事業後に、「相談してみようと思う」相談者は70%

事業成果及び今後の課題

事業成果

- 「相談できることを知らなかった」と回答した19%の相談者に対し、薬局が調剤薬以外の相談に対応できることを周知できたことは非常に有意義であり、このような取組を継続する必要性を感じた。
- 「以前から相談している」の回答が8%であったのに対し、事業後、70%の相談者から「相談してみようと思う」との回答が得られたことから、事業の実施により薬剤師が調剤した薬以外の相談役としてその有用性を広く周知できたものと考えられる。